変身しよう！

Blackfruits

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
変身しよう！

【Ｎコード】
Ｎ７５９４Ｋ

【作者名】
Ｂｌａｃｋｆｒｕｉｔｓ

【あらすじ】
ある日宅配便で魔法の杖が送られてきた。
冗談半分に「変身」と叫んだ僕は、その日からヒーローになってしまう。
これはその記念すべきヒーロー誕生の瞬間である。
かっこわらい。

（前書き）

※この物語はフィクションです。

「宅配でーす」
　アパートの玄関ドアに向かって「はーい」と応答した。
宅配なんて頼んだ覚えはないが、ハンコを持って僕はドアを開けた。
「どうも、１０５０円になります」
　しかも代引きだった。
「あ…ちょっと待ってください」
　荷物のあて名は僕宛てだった。
とりあえず１０５０円払って、ハンコをポンっと押す。
受け取った細長い荷物を見やって、僕は首を傾げた。
慎重に荷物の封を開けると、中から「魔法の杖」と書かれた紙と、
木製らしき杖が入っていた。
手に持ってじろじろと眺めていると、妹が奥からひょこっと出てきた。
「あ、それ私のやつ」
「お前の？俺宛てになってたんだけど」
「だって恥ずかしいじゃん」
　恥ずかしいものに俺の名前を使うな、と言ってやりたかった。
「なにこの魔法の杖って。どっかのアニメのおもちゃ？」
「んー、まあいいじゃん。返して」
「いいけどさ、随分古風だね。変身でもするやつ？へんしーん」
　ふざけて言ってみた僕の体がまばゆい光に包まれた。
僕は驚く間もなく、光に包まれていく。
妹がそれをみてぎょっとしたような顔をしている。
　次の瞬間、僕の体は大人になっていた。
「……」
「……」
　僕と妹は向かい合った状態で固まった。

「…兄貴…これなんの手品？」
「…俺が知るか」
何が起こったのか、状況が読み込めない。
妹が随分小さく見える。
１５０？くらいの中学生の僕は、一気に１７０？くらいの大人になっていた。
「兄貴って結構イケメンだったんだね…」
「なんだそりゃ…嬉しいけど今の状況でそんな話されてもな。どうやったら戻るんだ？」
妹は『魔法の杖』と書かれた紙の裏側を見てみた。
「えーと、『へんしん』で変身したんだから、逆ことばの『んしんへ』で戻る…だって」
なんかふざけてるのか真面目なのか分からない。
「じゃあ…んしんへ」
僕の体がにゅにゅっと縮んだ。
たちまち元の自分に戻る。
「うわー、きも」
「きもとかいうな！大体お前が買ったんだぞ！これ！」
「支払ったの兄貴だよ」
「だー！そういう問題じゃない！まあいいや、でこれどうしたらいいの？何か他に書いてない？」
「どれどれ」
妹は説明書を読み上げた。
「この杖は魔法の杖です。知ってる。変身方法、解除方法は…さっき読んだ。商品を開封し、初めて手にした人の所有物になります。てことは兄貴の。変身すると直感が鋭くなります。これで君もヒーローだ。キャッチフレーズかよ。あ、これで変身した状態で人助けをするとアルバイト料金が手に入ります。まじで？そのうち一割は製作者のものです。でなきゃ作りません、商売はシビアなもんです。兄貴、シビアってなに？」

「厳しいってことだろ…んで？」
「これで悪いことをしたら警察に捕まります。なので痴漢はやめましょう」
「なんで痴漢限定なんだ！ていうかそれじゃなくても捕まるだろ！」
「また、このアイテムは呪われています。捨てたり返品は出来ません」
「……」
一体誰がどうやって作ったんだ…
「最後に一言。この商品買った人はバカですね…だって」
「……」
突っ込みどころ満載のこの説明書に僕はどう突っ込めばいいのだろうか。
「あ！」
妹は何かに気づいたように声をあげた。
「ど、どうした？」
「これ買ったの私じゃない！」
「……は？」
僕は眉をひそめた。
「だって私買ったの２０５０円のやつだもん。製品名同じだけど」
なんでだ！
なんでそんなおもちゃみたいなものに２０５０円もかかるんだ！
それにどうしてそんなものを買うんだ！
そしてどうして『魔法の杖』なんだ！
しかもなんでそんなおもちゃよりこっちの方が安いんだよ！
「見た目は大人、頭脳は子供ってか」
「それ、最悪だろ」
妹の訳のわからないつぶやきに僕は突っ込んだ。
「誰がこんなもの頼んだんだ…」
「なんで兄貴宛てなんだろうねー」
妹は他人事のように笑った。

だって他人事だし、と言ったらそれまでだ。
「まぁ、現実はそんなものなんでしょ。ヒーローなんてくじ引きとか当たったようなものなんでしょってことだよ」
妹は何かを悟ったようにそう言った。
「だけどこれから僕の運命は大きく変わっていくのであった」
「そうそう自分に大げさな運命つけない方がいいって。じゃあ私寝るから」
妹は二度寝モードに入った。
僕はため息をついた。
意味があろうとなかろうと、こんなものがこの世に存在していることを知った僕の心境は、誰にも分かるまい。
「ヒーローって孤独…」
僕はそうつぶやいて、ちょっぴり昼寝しようと思った。

（後書き）

完全コメディです。なのであらすじもコメディです。
これを書いてる途中でふと、自分疲れてるのかなと思いました（笑）
楽しんでくれると嬉しいです。
　読んでくださった方々に感謝をこめて。
ではでは

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7594k/

変身しよう！

2010年10月21日23時16分発行